

## IV あとがき

# 1 あとがき

## ○ 県民会議委員の個別意見について

各事業の総括を取りまとめる過程で委員から出された意見で、各事業の総括に取り上げなかった意見などを次のとおりまとめる。

### 1 水源の森林づくり事業の推進

- ・ 「水源の森林づくり事業」で整備された森林は所有者に返還されているが、返還後も水源の森林であることを維持してゆかなければならない。所有者だけではなく、水源の森林としてその公益的機能を守ってゆくためには受益者である県民にも理解していただき、森林の機能を持続させる方策を考えなければならない。維持してゆくためには知恵と費用が発生する。具体的な方策を検討し持続していく必要がある。
- ・ 森林塾を活性化し森林事業後継者を育成するため、高校や大学などにもPRしたり、林業事業者に従業員の福利厚生面の支援金を出したりしたら就業者も増えるのではないか。

## ○ 施策調査専門委員会の検討過程について

本点検結果報告書を作成するにあたり、施策調査専門委員会で議論した内容や意見等については、P12-2～12-5 のとおりまとめる。具体的な検討状況については、県水源環境保全課ホームページで掲載している。

## 2 平成 30 年度 施策調査専門委員会の検討内容

● 主な議題・議論

開催回	開催日	主な議題・議論
第 43 回	H30. 6. 14	<p><b>1 特別対策事業の点検結果報告書(平成 29 年度実績版)について</b></p> <p>(1) 点検結果報告書の作成スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 点検結果報告書の構成は変更となったが、情報を出さなくするわけではなく、削除したものは県のホームページなど別の形でアクセスできるようにする。</li> <li>○ ホームページに掲載となったものは、紙資料から削除するのではなく、「このホームページをご覧ください」や URL を貼り付ける等の対応を行う。</li> </ul> <p>(2) 第 3 期計画の特別対策事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 3 期から、特別対策事業になった「3 土壌保全対策の推進」、「8 生活排水処理施設の整備促進」についての進捗状況の確認をした。</li> </ul> <p>(3) 平成 29 年度の実績確認等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回は、平成 29 年度実績、平成 30 年度実績予測を載せているが今後は、単年度のみ載せることとする。</li> </ul> <p><b>2 県民参加型ワークショップの検討状況報告等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開催候補日は 12 月 1 日(土)、または 12 月 8 日(土)。</li> <li>○ 会場は①厚木、②橋本が候補地。</li> <li>○ 中間評価(第 2 回)をとりまとめる際に、過去十数年をまとめることになるので、できるだけ広く県民から意見を集約する目的で開催する。</li> <li>○ 2 部構成とすることとし、前半はこれまでの事業紹介を参加者に伝えその後に、分科会に分かれ、最終的な指標評価や県民会議の仕組み等個別のテーマに分かれグループで議論する。</li> </ul> <p><b>3 第 3 期以降における経済評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済評価の方法は代替法と CVM 等があるが、事務局案では、第 4 期から代替法で評価する。</li> <li>○ 代替法で全てを評価することは困難である。</li> <li>○ 最終的に調査した報告を出す時期は、第 3 期の中間評価(第 2 回)なのか、第 3 期の終わりの報告書なのか、第 4 期で出す 20 年が終わった際に出すのか検討が必要である。</li> <li>○ 次回の施策調査専門委員会で時期について決めていきたい。</li> <li>○ 代替法が好ましい方法ではないかと思うが、CVM を使うという選択肢も残しておき、手法を検討していくことにしていきたい。</li> <li>○ 第 3 期中に経済評価の方法等の細かいところを決めて第 4 期から経済評価を行うというスケジュールが現実的ではないか。</li> </ul> <p><b>4 H31 年度モニタリング見直し(環境科学センター検討事項)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 河川モニタリングへの環境 DNA 調査の導入検討について。今年度は試験的に行い来年度本格始動していきたい。</li> <li>○ 河川生物モニタリングの新しい手法。</li> <li>○ 検討の結果、導入の方向で決定した。</li> </ul> <p><b>5 水源環境保全・再生施策の指標検討について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最終的な評価をどのようにするか具体化の部分を事務局で検討しているところである。</li> <li>○ 最終的な指標はすぐに決められるものではないので今後も検討していくこととした。</li> </ul>

開催回	開催日	主な議題・議論
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回の施策調査専門委員会では、結論が出ないので委員長が項目案を作成したので各委員に対して意見照会をすることとした。</li> </ul>
第44回	H30. 8. 23	<p><b>1 特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度実績版)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 点検結果報告書の構成は資料のとおりでよい。内容については、今回は時間がないので次回の施策調査専門委員会で議論していく。</li> <li>○ 「県民会議委員の個別意見」は、これから個別に県民会議委員に照会をしていく。各事業の総括は、県民会議で作成するので、各委員は必ず目を通してほしい。</li> <li>○ 点検結果報告書は、ホームページ上で見られるようになったのは良いが、本文、概要版、資料編が分割してPDFでダウンロードできるようになるとよい。</li> <li>○ PDFで全て一括ダウンロードできるようにしてほしい。</li> <li>○ 現在、ホームページの検索がやりづらいので、リンクを工夫してほしい。</li> <li>○ 各事業の流れ図だが、11事業中8事業しかないのをそれを説明できる文章を入れた方がよい。</li> <li>○ 基金で積み上げるというやり方はよくある形だが、それが単年度の税収を超えて積み上がっているかどうかを見たい。</li> <li>○ 先に、点検結果報告書(平成29年度実績版)を作成してから点検結果報告書(平成29年度概要版)を作成していく。</li> </ul> <p><b>2 県民参加型ワークショップの開催に伴う施策調査専門委員会の関わり方について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 開催日は12月1日(土)、会場は、厚木市立あつぎ市民交流プラザ(アミューあつぎ)で開催予定。</li> <li>○ 施策調査専門委員会としては、有識者という形でサポートをしていく。</li> <li>○ 午前中に有識者による評価発表が行われる予定であり、吉村委員長、大沼副座長、土屋副委員長の3人をお願いし、発表時間は各15分程度とする。</li> <li>○ 施策調査専門委員会として、主題を「かながわの森と水を語ろう」、副題を「第42回かながわ県民フォーラム」として提案したい。</li> </ul> <p><b>3 第3期以降における経済評価について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済評価は、第4期の2年目に成果物を提出するスケジュールである。</li> <li>○ 経済評価と経済効果の2つあり今回行うのは経済評価であると明記した方がよい。</li> <li>○ 自然が持つ機能や過去から現代の変化に対するコスト等を見積もっていくことだと考える。</li> <li>○ 次回の施策調査専門委員会で、経済評価を行う目的・対象を精査していく。</li> <li>○ 今回の施策調査専門委員会でスケジュール事務局案は合意された。</li> </ul> <p><b>4 水源環境保全・再生施策の指標検討(目標値)等について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指標検討のスケジュールだが、平成32年度5月に県に「総合的な評価(中間評価)報告書」を提出するため、平成31年度より「総合的な評価(中間評価)報告書」をとりまとめる必要がある。とりまとめるにあたって「評価のものさし」が必要であり、今年度中に「総合的な評価(中間評価)報告書」のものさしを決めないといけない。</li> <li>○ 「水」は指標が作りやすい気がするが、森林の環境や野生動物の部分を指標化するのは何を指標の対象とするのかを考えていかないといけない。</li> <li>○ 今回の施策調査専門委員会では、結論が出ないので委員長が項目案を作成したので各委員に対して期限を決めて意見照会をすることとした。</li> </ul>

開催回	開催日	主な議題・議論
第45回	H30. 11. 22	<p><b>1 施策の中間評価に向けた指標検討について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ある程度説得力のある指標と、努力して算出するが、それに準じるような指標との2段階くらいを設定しておき、森林に関しては、対照流域法や生態系調査のモデルを介して県下森林域全体に広げ、試算してみてもどうか。</li> <li>○ 指標案が①から⑨までであるが、準ずる指標については実線ではなく点線で囲むなどし、森林にあと1つか2つ入れることができるか検討して欲しい。</li> <li>○ 今議論しているような指標は、特別対策事業の評価だけではなく、一般財源での事業効果も含む評価となるので、そうした点についても説明が必要。</li> <li>○ 指標が意味するものや解釈をセットで示しておかないと、どういう意味なのか分からない。解釈を共有化し、書き添える必要がある。県民に分かりやすい解説が伴っていないと、指標だけ選んでも伝わらない。(平均スコア値、植被率など)</li> <li>○ 指標案③については、全国を見渡す中で、神奈川県がどのあたりにあるかを示せると良い。全国的な統計値があれば、それとの比較でも良いかもしれない。大都会を抱えている横浜・川崎と、他の首都圏という似たところを比較するのも悪くない。</li> </ul> <p><b>2 特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度実績版)について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 整理 No. 17 について、外来植物が増えているという話であれば非常に大きなトピックスであるが、不嗜好性植物が主というのは、ある時点の場面を切り取った話でしかない。それほどこだわることはない。よって、この文言を記載する必要性はないと考える。むしろ水源の話からすると、下層植生が回復してきたということこそが重視することだと思う。</li> <li>○ 整理 No. 18、19 について、「今後解決していくべき課題はあるものの」、の前に「～のような」という形で具体例を1、2行で纏めてはどうか。</li> <li>○ 本委員会後、2回目の意見照会があるので、現時点では【検討中】や【検討継続】と記載しておき、本件についても意見照会してはどうか。</li> </ul> <p><b>3 施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 引継内容の原案を確認し、詳細の検討は次回委員会にて議論することとした。</li> </ul> <p><b>4 県民参加型ワークショップに関する検討状況報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料により事務局から検討状況を報告し、当日の参加者数や集合時間、分科会の進め方などについて確認を行った。</li> </ul> <p><b>5 環境DNA調査の分析結果報告</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県環境科学センターより平成30年度に実施した環境DNA調査の結果について説明し、次年度以降の調査予定や今後の検討課題等について確認を行った。</li> </ul>
第46回	H31. 1. 30	<p><b>1 施策の中間評価に向けた指標検討について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指標案②について、指標の定義が明確になっていない(ランクA・B・C・D・外)。『手入れ』のように人の作業自体を示す表現ではなく、森林の状態を表すことのできるような表現にできるとよい。</li> <li>○ 参考指標案Aについて、糞塊調査は、11月に集中して行うので、その時期にシカがどこに居たかによって結果が左右される。誤解を受けないよう全体の個体数の推移グラフの併用も検討してみてもどうか。</li> <li>○ 参考指標案Bについて、シナリオで理想と放置とあるが、放置してもそこまで悪くならないのでは。自然の回復力も考慮したほうがいい。また、理想と記載すると行政としてこの水準を求めていると誤解を生む可能性もある。</li> <li>○ 参考指標については、本日の議論後、具体化する中で作業が生じるのでそれを見て再度議論したい。</li> </ul>

開催回	開催日	主な議題・議論
		<p>○ 研究（調査）サイドからすると数値はきちんとしなければならないが、ここで扱うのは行政評価のための指標であり、別ではないか。サイエンスでは×だが、行政評価としては○というものもあるのでは。こうした議論もあるので、指標の検討については、時間に縛られず議論しないといけない。</p> <p>○ 指標で対象にする森林がどのようなものか（人工林、天然林）、どの地域（エリア）を対象に評価していくのかは、実際に指標を適用する段階で必要になってくるので、年度内には整理しておきたい。また、実際に適用できるかも大事なので、（１）数値化や（２）目標値の設定の可否についても今後検討が必要。</p> <p>○ 指標案①と②を今後具体化する。参考指標案ＡＢについては参考情報とし、中間評価のどこかで記載する。掲載内容については４月以降も引き続き検討する。</p> <p>○ 国の指標もゴールを１００％にしているものはあまりない。平成３８年度時点で１００％になっているのが良い風にも見えるが、行政的にはそうではないという風にした方がよい。</p> <p>○ 中間評価では、過去の状況と現状（変遷）で比較するのが一つ。目標値については、中間評価で決められないものもあるだろうし、設定できるものも１００ではないかもしれない。そのあたりの課題も含めて中間評価ということになるだろう。</p> <p><b>２ 特別対策事業の点検結果報告書(平成29年度版)について</b></p> <p>○ 全体の総括で「概ね順調に進められていると評価できる。」という文章に主語がない。なくても意味は十分伝わると思うが、何が順調に進められているのか、主語にあたる文言があると良い。</p> <p>○ １番事業（水源の森林づくり事業の推進）の事業総括について、「全国的にみても先行している山岳域でのシカ生息数減少と～」という文については、誤解のないよう修正が必要ではないか。</p> <p><b>３ 施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について</b></p> <p>○ 県民に広く発信するフォーラムや施策懇談会が次年度もしくは再来年度にあった方が良くか考えるので、それを記載してはどうか。施策委員会としては県民会議でそういうのを進める部分を担いたい。というレベルであれば記載できるか。</p> <p>○ ③の中に、『県民意見も踏まえ広く介する形で（意見書の作成や経済評価を行う）』という形でも良いのかと思う。最終案は事務局と委員長で調整する。</p> <p><b>４ 平成31年度の委員会開催スケジュール等について</b></p> <p>○ ③に施策懇談会があり、議決をする県民会議とは別に開催された方が良い。６月の施策委員会では施策懇談会に向けた準備が必要なので、議題④として追記した方が良い。 施策懇談会は県民会議マターではあるが、施策の指標検討や経済評価など内容は当委員会でも検討しているテーマがメインになるだろう。</p> <p>○ ①のスケジュールで経済評価の実施が平成３４年度にあるが、その準備段階も明記してはどうか。</p> <p>○ ①で平成３２年と３３年にかけて、第４期計画への策定とあるが、第４期が終わった後の議論の準備を始めるという話題はあえて入れていないのか。行政として書けないのは分かるが、県民会議としては大きな問題である。その検討が４期の欄に必要では。細かい議論は時期尚早だが、２０年の大綱が現況とどう変わっているかをチェックすることをそろそろ始めてもいいのでは。</p> <p><b>５ 平成 31 年度実施モニタリング調査について（主な変更点）</b></p> <p>○ 県から平成 31 年度に実施するモニタリング調査の主な変更点について説明し、意見交換を行った。</p>